

決算補足説明資料

2024年度 第1四半期 業績概要

注意事項

- 2024年度より、これまでシステムエンジニアリング事業に含めていた太陽光発電用パワーコンディショナ関連の情報を、モーションコントロール事業に移行するセグメント区分の見直しを行います。これにより、2024年度の数値は変更後の情報に組み替えた上で算出しています。なお、2023年度の数値についても変更後の情報にて表示しています。（P17参照）
- 本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。実際の業績等に影響を与える重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替・株式市場の動向などがあります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。
- 本資料に記載の数値は四捨五入にて表示しており、決算短信など他資料と異なる場合があります。
- 本資料の著作権は当社に帰属し、当社の事前の承諾なく複製または転用することを禁じます。

株式会社 安川電機 (TSE6506)

(対象期間：2024年3月1日～2024年5月31日)

© 2024 YASKAWA Electric Corporation

本日は、お忙しい中、決算オンライン説明会にご参加いただき、ありがとうございます。

まずはじめに、資料表紙に記載していますが、今年度よりセグメント区分の見直しを行っています。

これにより、2024年度・2023年度の数値は、変更後の情報に組み替えた上で算出しています。詳細につきましては17ページをご参照ください。

それでは、2024年度 第1四半期の業績概要について、説明いたします。

4 ページにお進みください。

1. 2024年度 第1四半期 連結業績

- 2024年度 第1四半期 実績
- 主要事業の概要
- 事業セグメント別売上収益構成比
- 所在地別売上収益, 構成比
- 営業利益増減要因分析
- 2024年度1Qにおける取り組み

2. 2024年度 通期 連結業績見通し

- 2024年度 通期 見通し

3. 参考資料

- セグメント区分変更による組替表示
- 設備投資・研究開発費,為替レート・感応度
- B/S構造の推移
- 売上収益・営業利益推移
- 四半期売上収益推移
- 四半期受注推移

セグメント別事業概要

モーションコントロール

【主要製品】

- ・ ACサーボモータ、コントローラ
- ・ リニアサーボ
- ・ インバータ
- ・ 太陽光発電用パワーコンディショナ
- ・ PMモータ など



ロボット

【主要製品】

- ・ 産業用ロボット
 - アーク・スポット溶接・塗装用途向け
 - FPD搬送・ハンドリング用途向け
- ・ 半導体製造装置用ロボット
- ・ バイオメディカル用途向けロボット
- ・ 人協働ロボット など



システム エンジニアリング

【主要製品】

- ・ 鉄鋼プラント用電機システム
- ・ 上下水道用電気計装システム など



その他

- ・ 物流サービス など

1. 2024年度 第1四半期 連結業績

© 2024 YASKAWA Electric Corporation

<スキップ>

- ・ 高水準な受注残に支えられた前年同期に比べ減収
- ・ 売上減少に伴う利益減の影響を大きく受け減益

	2024年度	2023年度	前 年 同 期 比	
	1Q 実績	1Q 実績	増減額	増減率
売 上 収 益	1,324億円	1,425億円	▲101億円	▲7.1%
営 業 利 益	111億円	164億円	▲53億円	▲32.4%
税 引 前 利 益	123億円	170億円	▲46億円	▲27.4%
親会社の所有者に帰属する 四 半 期 利 益	92億円	117億円	▲25億円	▲21.1%

当社グループの業績は、高水準な受注残に支えられた前年同期に比べ、減収となりました。

また、利益面については、売上減少に伴う利益減の影響を大きく受けたことにより、減益となりました。

売上収益は 前年同期比7.1%減の1,324億円、
営業利益は 32.4%減の111億円、
税引前利益は 27.4%減の123億円、
四半期利益は 21.1%減の92億円 です。

それでは、次の5ページにお進みください。

2024年度 第1四半期 実績（セグメント別）

- ・ モーションコントロールはACサーボを中心に売上減の影響を大きく受け減益
- ・ ロボットは生産の高度化・自動化に対する底堅い需要や自動車関連の投資継続などにより増収も、先行投資や生産稼働率の低下などにより減益

(単位：億円)	2024年度 1Q		2023年度 1Q		前 年 同 期 比	
	実績	利益率	実績	利益率	増減額	増減率
売 上 収 益	1,324		1,425		▲101	▲7.1%
モーションコントロール	594		716		▲123	▲17.1%
ロボット	570		528		+43	+8.1%
システムエンジニアリング	105		123		▲18	▲14.7%
その他	55		58		▲3	▲5.7%
営 業 利 益	111	8.4%	164	11.5%	▲53	▲32.4%
モーションコントロール	56	9.5%	98	13.7%	▲42	▲42.6%
ロボット	48	8.4%	62	11.7%	▲14	▲22.6%
システムエンジニアリング	11	10.1%	10	8.3%	+0	+3.0%
その他	2	4.5%	▲0	▲0.3%	+3	-
消去または全社	▲6	-	▲6	-	▲0	-

セグメント別の業績です。

モーションコントロールは、ACサーボモータ・コントローラ事業を中心に売上減少の影響を大きく受け、減益となりました。

ロボットは、生産の高度化・自動化に対する底堅い需要や、自動車関連の投資継続などにより増収も、先行投資や生産稼働率の低下などにより減益となりました。

なお、“売上収益における為替の影響”は全社でプラス99億円でした。

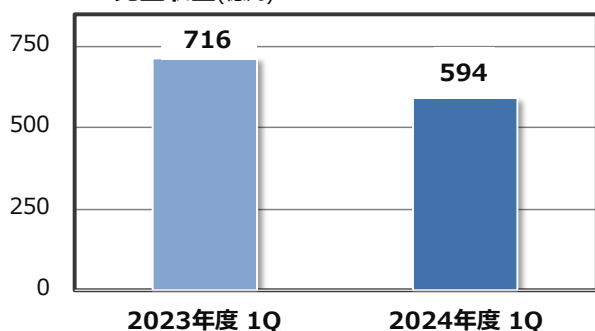
内訳として、モーションコントロールでプラス48億円、ロボットでプラス49億円、システムエンジニアリングでプラス2億円、その他でプラス1億円 です。

続いて、各セグメントの詳細についてご説明いたします。

次の6 ページへお進み下さい。

主要事業の概要 モーションコントロール

売上収益(億円)



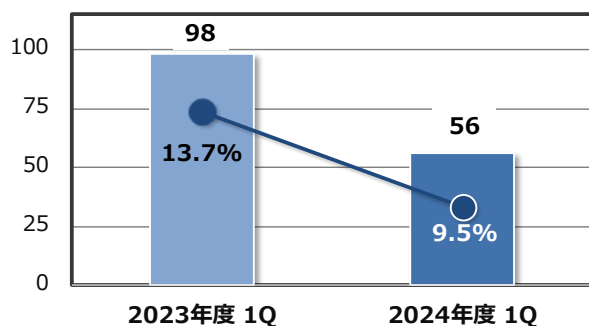
【売上収益】

- ACサーボは前年同期に見られた太陽光発電用パネル関連の需要剥落や、半導体・電子部品市場の在庫調整の長期化などの影響を受け減収
- インバータは米国のオイル・ガス関連、アセアン各国やインドにおけるインフラ関連の需要が堅調に推移も、その他の地域で在庫調整等の影響を受け減収

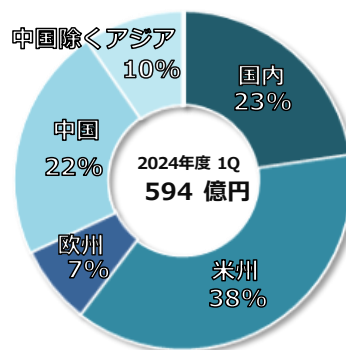
【営業利益】

- 付加価値の改善は進んだものの、売上減少に伴う利益減の影響を大きく受け減益

営業利益(億円)・営業利益率(%)



所在地別売上収益構成比



YASKAWA

© 2024 YASKAWA Electric Corporation

6

モーションコントロールの状況です。

売上収益は、前年同期比17.1%減の594億円、
営業利益は42.6%減の56億円となりました。

なお、24年度 第1四半期におけるACサーボとインバータの売上収益の比率は、
ACサーボが 47%、インバータが 53%です。

ACサーボは、前年同期に見られた太陽光発電用パネル関連の需要剥落や、
半導体・電子部品市場における在庫調整の長期化などの影響を受け、
売上収益は減少しました。

インバータは、米国のオイル・ガス関連およびアセアン各国やインドにおけるインフラ関連の需要が
堅調に推移しましたが、その他の地域では在庫調整等の影響を受け販売が伸び悩み、
売上収益は減少しました。

利益面については、付加価値の改善は進んだものの、売上減少に伴う利益減の影響を
大きく受け、減益となりました。

ご参考として、24年度 第1四半期の所在地別 売上収益 構成比の内訳についてお伝えします。

ACサーボは、

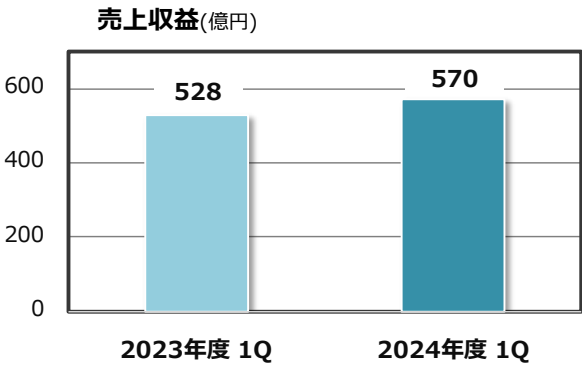
国内26%、米州27%、欧州9%、中国28%、中国除くアジア9% です。

インバータは、

国内21%、米州48%、欧州6%、中国16%、中国除くアジア9% です。

それでは、次の7ページにお進みください。

主要事業の概要 ロボット

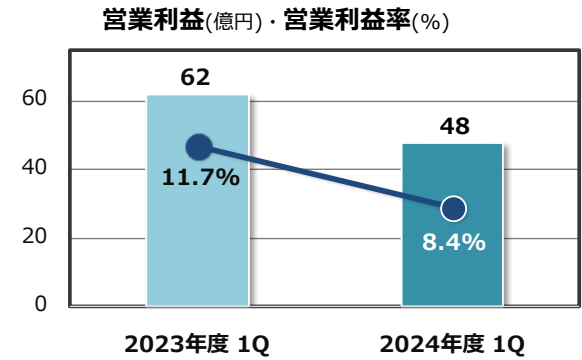


【売上収益】

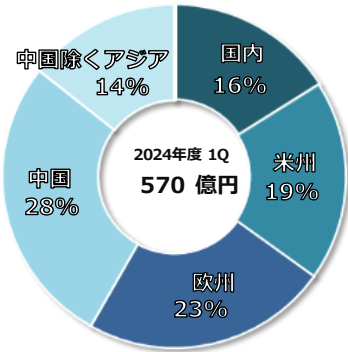
- ・ 一般産業分野では、日本と欧米を中心に生産の高度化・自動化の投資が底堅く推移
- ・ 自動車市場においてもグローバルに投資が継続し増収

【営業利益】

- ・ システム対応力強化に向けた先行投資や、生産稼働率の低下などにより減益



所在地別売上収益構成比



ロボットの状況です。

売上収益は、前年同期比8.1%増の570億円、
営業利益は、22.6%減の48億円となりました。

一般産業分野では、日本と欧米を中心に生産の高度化・自動化の投資が
底堅く推移しました。

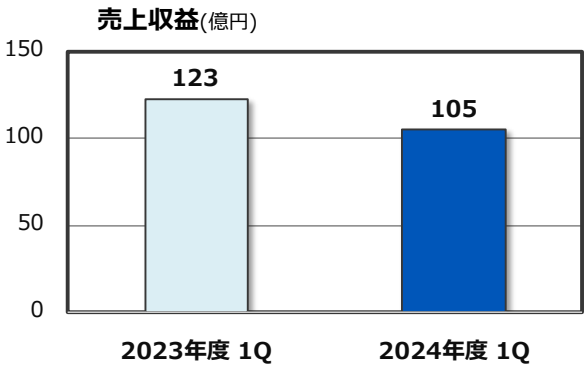
自動車市場においてもグローバルに投資が継続したことで、
売上収益は前年同期比で増加しました。

利益面については、システム対応力強化に向けた先行投資や、生産稼働率の低下などにより
減益となりました。

これらの結果、営業利益率は前年同期から3.3ポイント低下し、8.4%となりました。

それでは、次の8ページにお進みください。

主要事業の概要 システムエンジニアリング

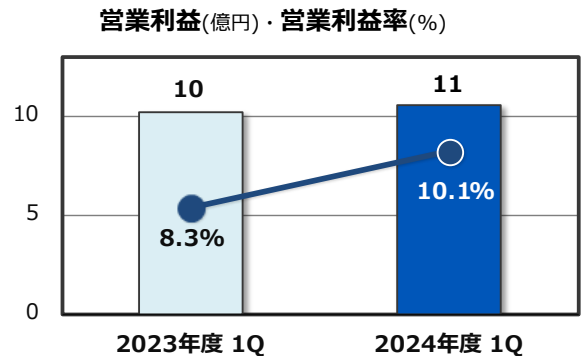


【売上収益】

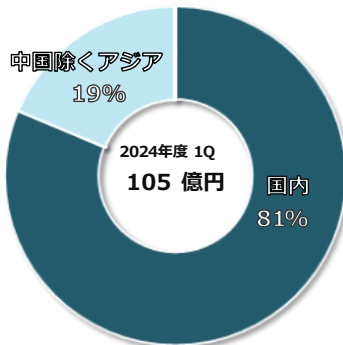
- 港湾クレーン関連の販売が堅調に推移も、前年度下期の大型風力発電関連の子会社売却影響により減収

【営業利益】

- 事業構造改革の効果などにより増益



所在地別売上収益構成比



システムエンジニアリングの状況です。

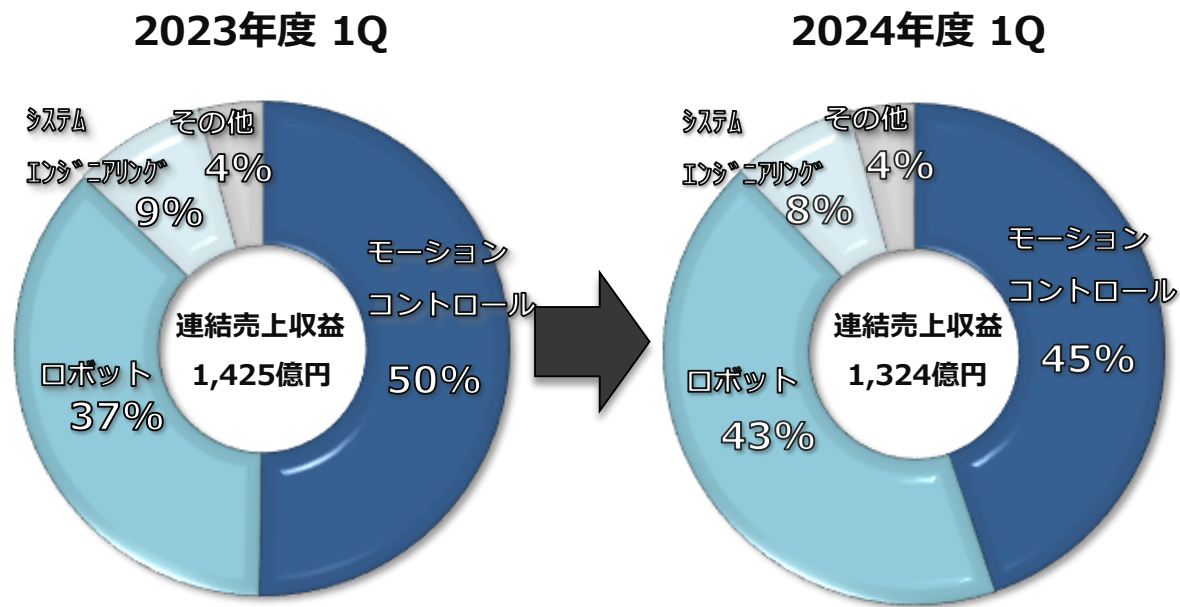
売上収益は、前年同期比14.7%減の105億円、
営業利益は、3.0%増の11億円となりました。

港湾クレーン関連の販売が堅調に推移しましたが、
前年度下期の大型風力発電関連の子会社売却影響により、
売上収益は前年同期比で減少しました。

利益面については、事業構造改革の効果などにより、増益となりました。

これらの結果、営業利益率は前年同期から1.8ポイント改善の10.1%となりました。

それでは、次の9ページにお進みください。



セグメント別の売上収益 構成比です。

前年同期から
モーションコントロールが5ポイント、システムエンジニアリングが1ポイント、それぞれ減少した一方で、
ロボットが6ポイントと大幅に増加しました。

これらの結果、モーションコントロールは45%、ロボットは43%、
システムエンジニアリングは8 %の構成比となりました。

それでは、次の10ページにお進みください。

所在地別売上収益

・ 米州・中国除くアジア以外の地域は減収

(単位：億円)	2024年度	2023年度	前年同期比	
	1Q実績	1Q実績	増減額	増減率
売上収益	1,324	1,425	▲101	▲7.1%
国内	358	405	▲48	▲11.7%
海外	966	1,020	▲53	▲5.2%
米州	333	305	+28	+9.3%
欧州	178	228	▲51	▲22.2%
中国	297	364	▲67	▲18.5%
中国除くアジア	158	122	+36	+29.4%

[注] 欧州には、中近東およびアフリカを含む

所在地別の売上収益です。
米州・中国除くアジア以外の地域は減収となりました。

地域別の状況ですが、
国内は半導体市場の回復が見られましたが、一般産業や自動車市場を中心に
需要は低調に推移しました。

米州は半導体関連需要の回復に加え、オイル・ガス関連や自動車市場の設備投資が
堅調に推移しました。

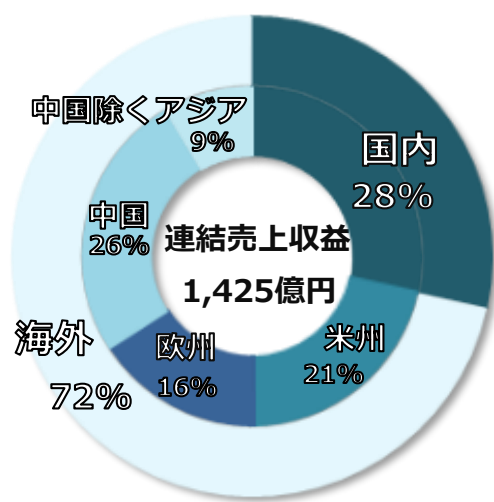
欧州は、EVの生産におけるロボット関連の設備投資が堅調も、
製造業全般における在庫調整の影響を受けました。

中国は、自動車関連需要や半導体市場の立ち上がりに支えられたものの、
太陽光発電用パネル関連の投資が一巡した影響もあり、需要は伸び悩みました。

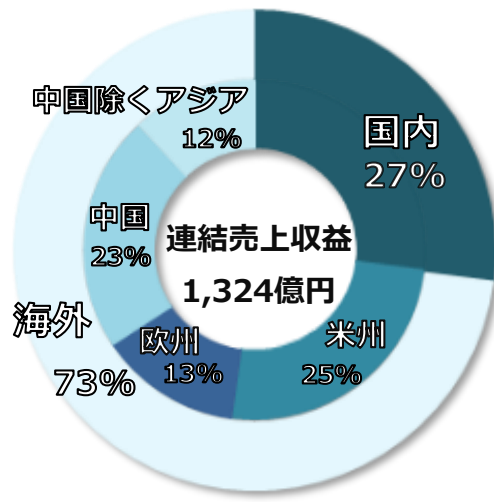
中国除くアジアについては、アセアン各国やインド等でインフラ関連や一般産業分野などにおける
省エネ関連需要が増加しました。
また、韓国の半導体関連需要の回復もあり、需要は堅調に推移しました。

それでは、次の11ページにお進みください。

2023年度 1Q



2024年度 1Q



[注] 欧州には、中近東およびアフリカを含む

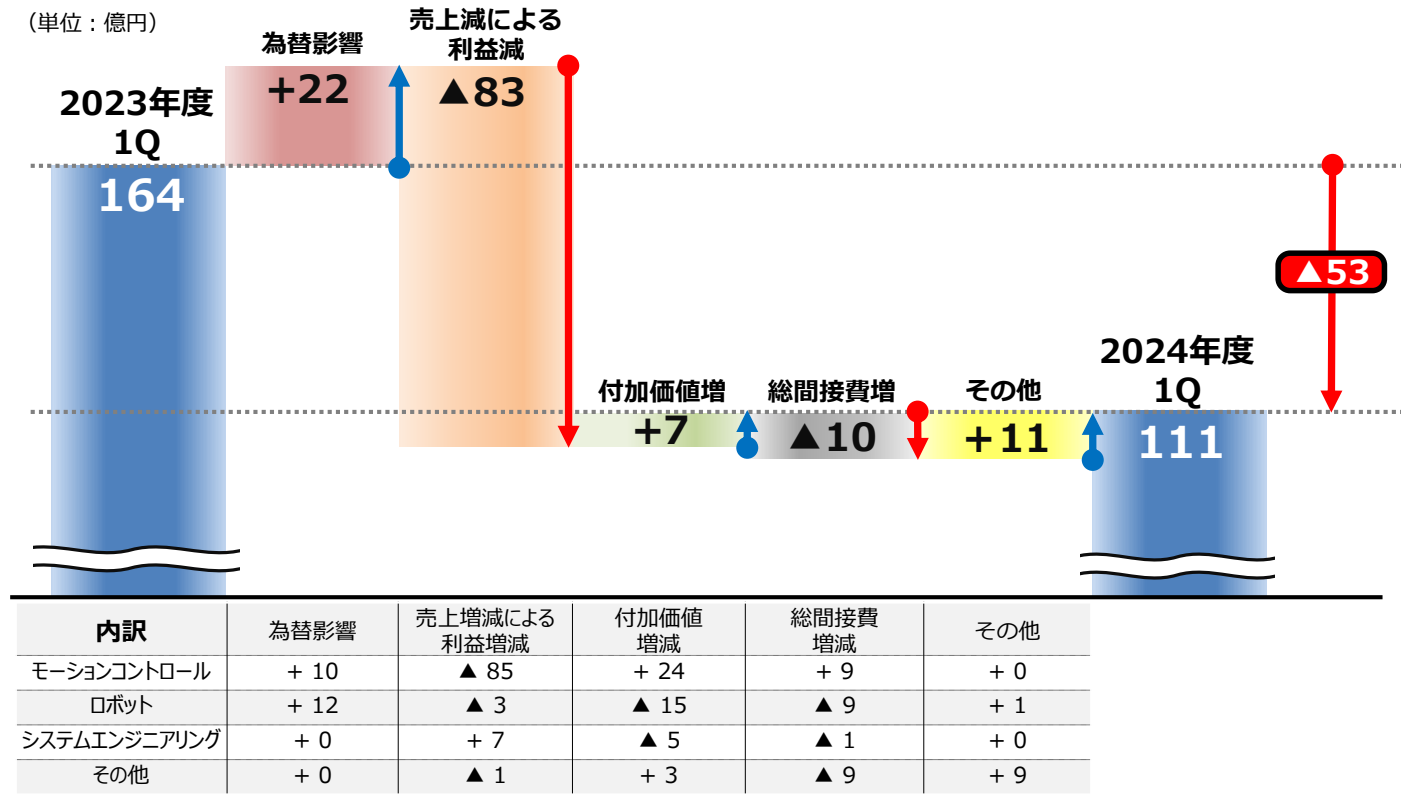
所在地別の売上収益 構成比は、
海外が前年同期から1ポイント増加し73%に、国内が1ポイント減少の27%となりました。

海外の内訳として、中国・欧州がそれぞれ3ポイント減少した一方で、
米州が4ポイント、中国除くアジアが3ポイント増加しました。

海外においては、米州の構成比が増加し、売上収益が一番大きな地域となりました。

それでは、次の12ページにお進みください。

営業利益増減要因分析（2023年度1Q → 2024年度1Q）



営業利益の増減要因分析です。

当期の営業利益は、前年同期の164億円から53億円減少し、111億円となりました。

為替による影響は、ドルをはじめ各通貨が円安に推移し、プラス22億円。

売上減による利益減は、主にモーションコントロールが影響し、マイナス83億円。

付加価値の増加はプラス7億円。

主な内訳として、モーションコントロールの新製品切り替え効果がプラス2億円、内製化の効果が1億円です。

なお、「材料費や物流費の高騰影響」については23年度でおおむね正常化し、これに伴う「価格転嫁」も一巡したことから、これらの影響はゼロとしています。

総間接費の増加による影響はマイナス10億円。

賃金改善などで労務費が増加した一方、外注費などの活動費の削減を進めました。

最後の「その他」はプラス11億円です。

これには、前年度に一時的に発生した固定資産の除却損がなくなった影響や、開発計画に伴う北九州市への一部土地の売却を行った影響が含まれています。

それでは、次の13ページにお進みください。

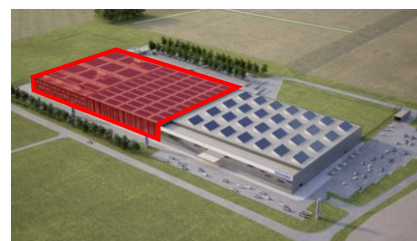
“i³-Mechatronics”ソリューションによる価値創出

→ 生産力の強化

- 欧州地域でのロボット生産体制の強化を決定（スロベニア）
 - ・ ロボットシステム工場の移転拡張
 - ・ ERDC(EMEA ロボティクス ディストリビューションセンタ)の新設

→ 販売力の強化

- 自動車産業で重要度が増すアルミ材溶接に関する新工法やアーク溶接の視える化を実現する“Arc Visualizer”を2024国際ウエルディングショーで提案
- 欧州でiCube Control※の製品群によるコントローラビジネスの構築



YASKAWA Europe Robotics 拡張後イメージ
(赤枠部：ロボットシステム工場・ERDC)

メカトロニクス応用領域の事業拡大による サステナブルな社会実現への貢献

- アステラス製薬とバイオ向け双腕ロボット「まほろ」を活用した革新的な細胞医療プラットフォームの構築に向けた覚書を締結
- 中部ロボットセンタ(愛知県みよし市)をCO₂排出ゼロ電力に切替え、当社拠点初のCO₂排出ゼロ(カーボンニュートラル)を達成



バイオ向け双腕ロボット「まほろ」

※:2024年1月から展開を開始したi³-Mechatronicsを実現する当社独自のコントローラソリューション

2024年度1Qにおける取り組みです。

生産面においては、欧州地域のロボット生産体制の強化を決定いたしました。現在稼働している工場の隣にシステム工場を移転・拡張するとともに、ディストリビューションセンタを新設します。すでに着工を開始し、2025年に稼働開始の予定です。

販売力の強化では、4月に開催された国際ウエルディングショーに出展し、近年、自動車産業で採用が広がるアルミ材溶接の新工法や、アーク溶接作業の視える化を提案するなど、様々な接合ニーズに応える高付加価値ソリューションの紹介を行いました。

また、欧州ではiCube Controlを基本としたコントローラビジネスの構築に向け、お客さまへのアプリケーション提案を通じた市場開拓を進めています。

メカトロニクス応用領域の事業拡大においては、アステラス製薬株式会社との間で、細胞医療プラットフォーム構築に向けた覚書を締結しました。今後は、当社子会社が開発・販売しているバイオ向け双腕ロボット「まほろ」を活用し、高品質な細胞医療製品の製造と研究開発期間の短縮を実現する、新たな細胞医療プラットフォームを共同で創出します。

また、愛知県みよし市の“中部ロボットセンタ”ではCO₂フリー電力への切替えが完了し、国内の拠点として初めてCO₂排出量をゼロとするカーボンニュートラルを達成しました。当社は2025年までにCO₂フリー電力の比率を、国内単体では75%以上にすることを目標として活動を推進しています。

それでは15ページへお進み下さい。

2. 2024年度 通期 連結業績見通し

© 2024 YASKAWA Electric Corporation

<スキップ>

・半導体・電子部品市場の投資再開が想定される等、製造業における自動化・省力化に関する設備投資が回復する見込みであることから、通期見通し(2024年4月5日公表)を据え置く

	2024年度 見通し	2023年度 実績	前年同 期 比	
			増減額	増減率
売 上 収 益	5,800億円	5,757億円	+43億円	+0.8%
営 業 利 益	700億円	662億円	+38億円	+5.7%
税 引 前 利 益	740億円	691億円	+49億円	+7.1%
親会社の所有者に帰属する 当 期 利 益	540億円	507億円	+33億円	+6.5%

2024年度 通期の業績見通しです。

半導体・電子部品市場の投資再開が想定されるなど、製造業における自動化・省力化に関する設備投資が回復する見込みのため、2024年4月5日に公表しました通期見通しを据え置きます。

なお、2024年6月1日から2025年2月28日までの期間における平均為替レートにつきましては、国内外の金融政策など為替相場の環境に不透明な要素が残るため、変更せず、ドル145円、ユーロ155円、人民元20円、韓国ウォン0.11円と想定しています。

続いて、23ページにお進みください。

3. 参考資料

セグメント区分変更による組替表示（2023年度実績）

- 2024年度より従来システムエンジニアリング事業に含めていた太陽光発電用パワーコンディショナ関連の情報を、モーションコントロール事業に移行するセグメント区分の見直しを実施
- 2024年度・2023年度の数値は、セグメント変更後の情報にて表示

2023年度（セグメント変更後）								変更 影響額 （通期）
（単位：億円）	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	
売上高	1,425	1,465	2,890	1,354	1,513	2,867	5,757	-
モーションコントロール	716	691	1,408	638	649	1,287	2,694	+94
ロボット	528	596	1,124	546	677	1,223	2,347	-
システムエンジニアリング	123	108	231	107	123	230	461	▲94
その他	58	70	128	63	63	127	255	-
営業利益	164	166	331	135	197	332	662	-
モーションコントロール	98	104	202	84	104	188	390	+8
ロボット	62	68	130	56	66	122	251	-
システムエンジニアリング	10	4	14	2	33	35	49	▲8
その他	▲0	0	0	1	3	4	4	-
消去または全社	▲6	▲10	▲15	▲7	▲9	▲16	▲32	-

<スキップ>

設備投資・研究開発費, 為替レート・感応度

設備投資・研究開発費の状況

(単位：億円)

	2022年度 (実績)	2023年度 (実績)	2024年度 (計画)
設備投資額	276.1	378.6	420.0
減価償却費	196.7	208.0	220.0
研究開発投資	187.8	212.5	220.0

為替レート

※ 為替レートは、期中平均レートを記載

(単位：円)

	2022年度 (実績)			2023年度 (実績)			2024年度 (想定)		
	1Q	上期	通期	1Q	上期	通期	1Q(実績)	上期	通期
対 米ドル	124.2	129.9	134.1	134.9	138.8	143.2	153.2	149.1	147.1
対 ユーロ	134.3	136.8	139.8	146.1	151.0	155.1	165.5	160.2	157.6
対 元	19.12	19.59	19.68	19.46	19.61	20.02	21.16	20.58	20.29
対 ウォン	0.100	0.102	0.103	0.102	0.106	0.109	0.113	0.112	0.111

為替感応度

(単位：億円)

	1%変動による影響額目安 (2024年度_通期)	
	売上収益	営業利益
米ドル	13.7	1.8
ユーロ	8.1	1.8
元	12.8	3.4
ウォン	4.1	1.9

B/S 構造の推移

2024年2月29日時点

➢ 親会社所有者帰属持分比率

➢ 親会社所有者帰属持分

➢ 有利子負債

➢ D/Eレシオ

➢ (ネットD/Eレシオ)

➢ 棚卸資産

➢ (回転月数)

➢ ROE

➢ ROIC

56.9%

3,993億円

959億円

0.24

0.14

2,079億円

(4.4ヶ月)

13.6%

11.8%

2024年5月31日時点

➢ 親会社所有者帰属持分比率

➢ 親会社所有者帰属持分

➢ 有利子負債

➢ D/Eレシオ

➢ (ネットD/Eレシオ)

➢ 棚卸資産

➢ (回転月数)

56.5%

4,105億円

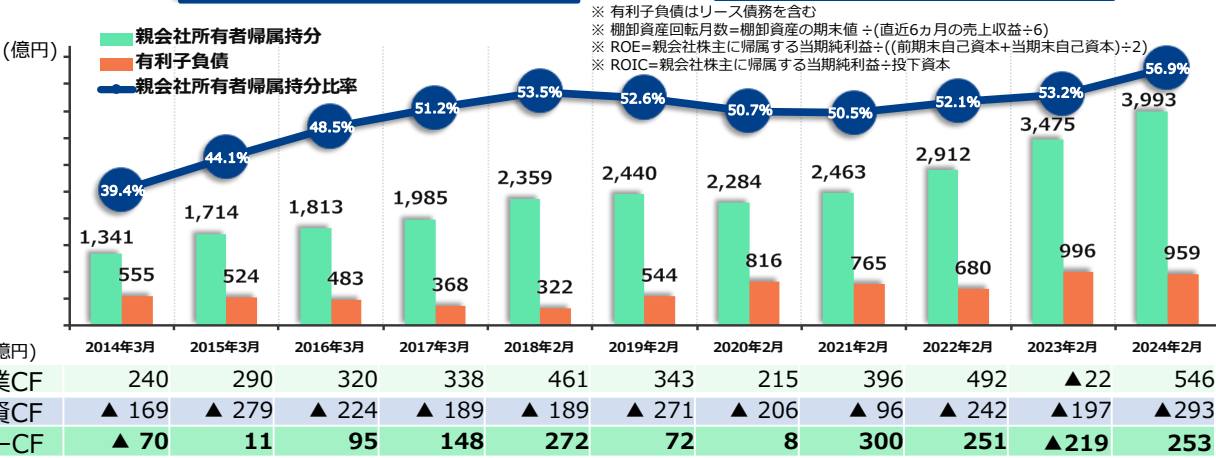
1,088億円

0.26

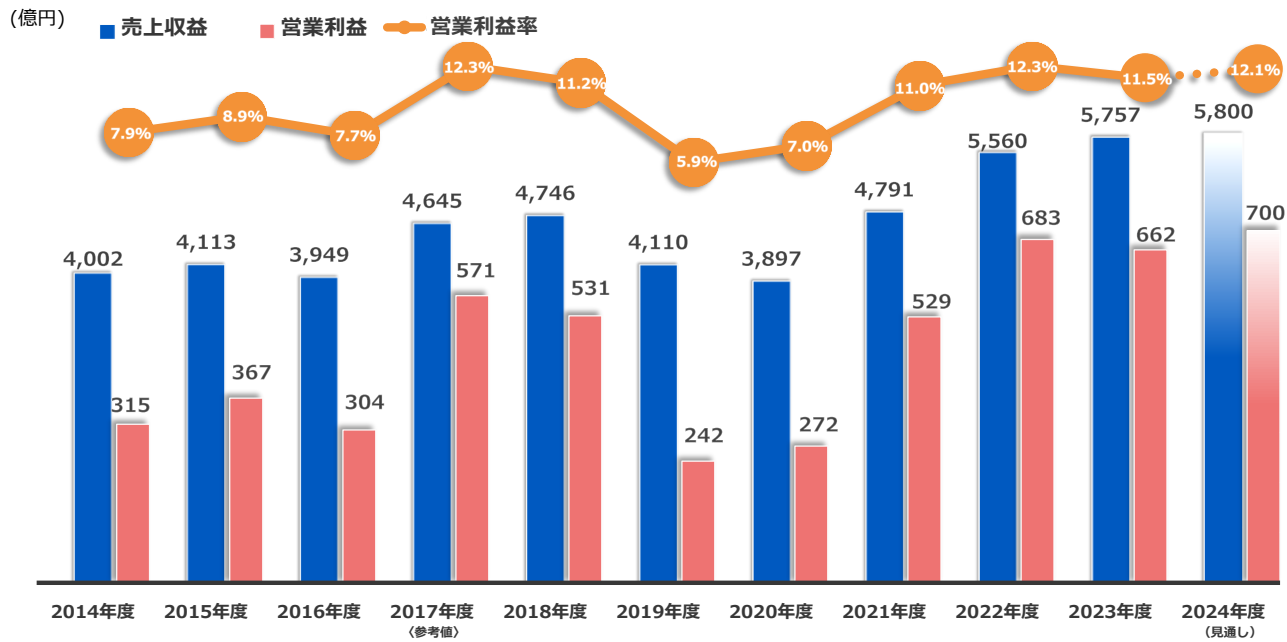
0.14

2,167億円

(4.6ヶ月)



売上収益・営業利益推移（2014年度～2024年度見通し）



|| Realize 100

Dash 25

Challenge 25 Plus

Realize 25 ||

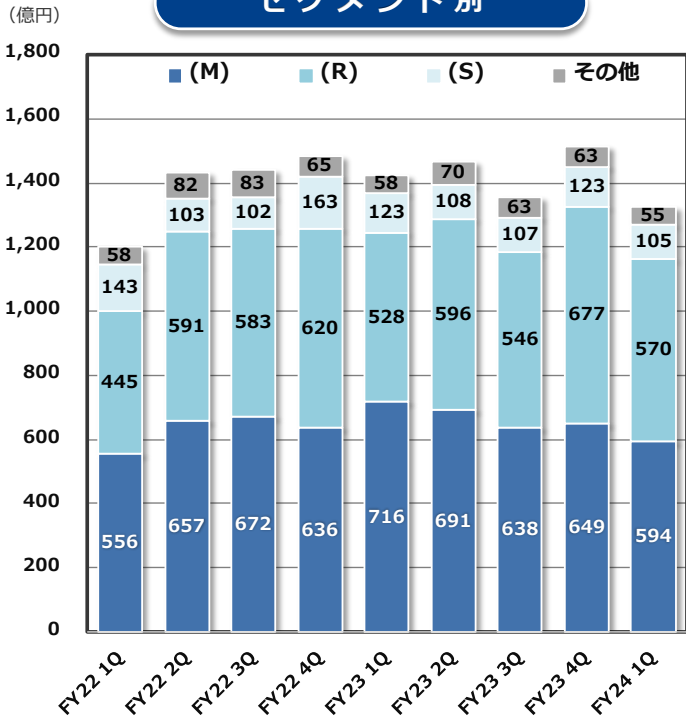
中 期 経 営 計 画

[注1] 2017年度までのデータは日本基準にて記載
[注2] 2017年度通期実績は、対象期間を2017年3月21日～2018年3月20日に置き換えた〈参考値〉にて記載

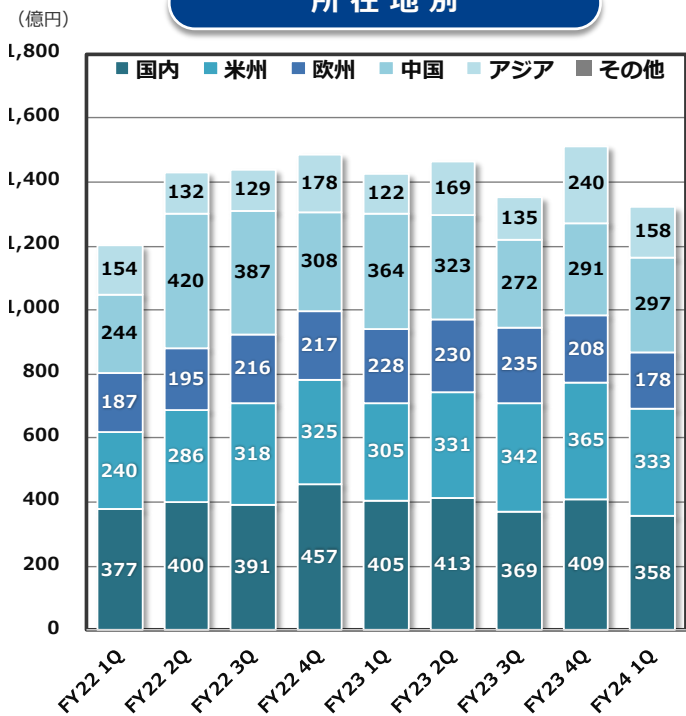
<スキップ>

四半期売上収益推移

セグメント別



所在地別



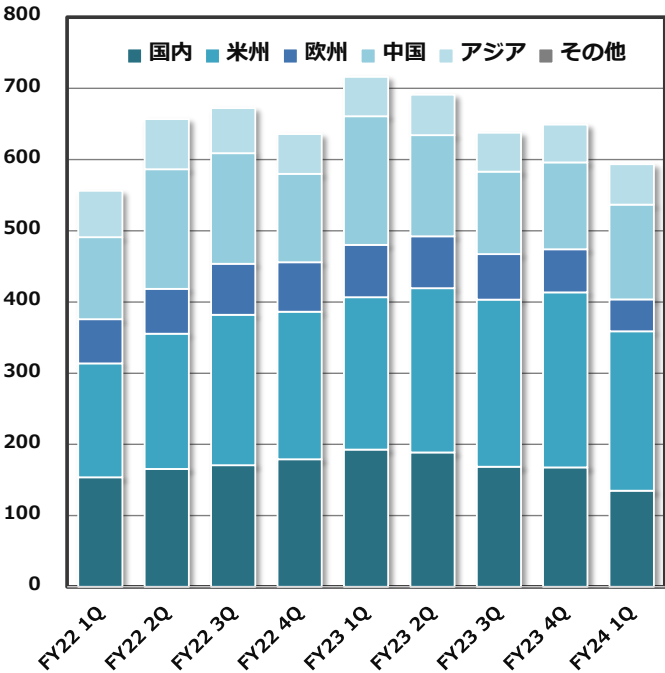
[注. 1] 表記：(M) = モーションコントロール, (R) = ロボット, (S) = システムエンジニアリング
[注. 2] FY22のデータは、セグメント区分見直し前の数値を使用

<スキップ>

四半期売上収益推移

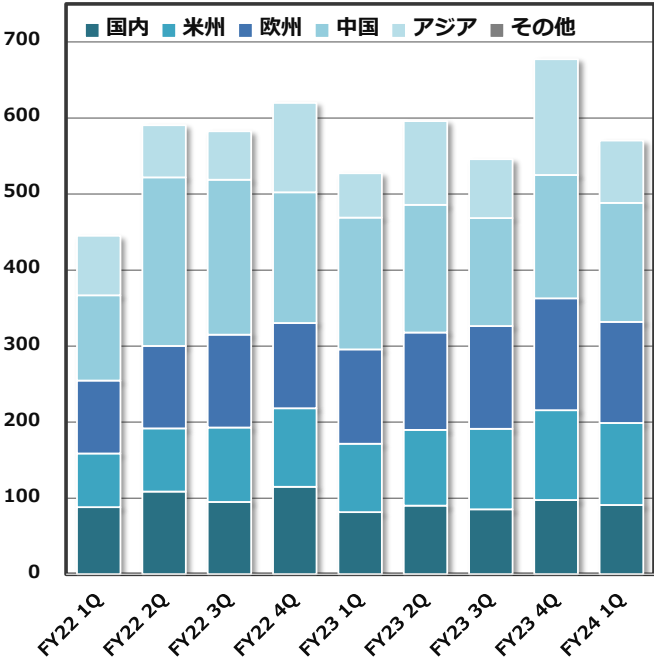
モーションコントロール

(億円)



ロボット

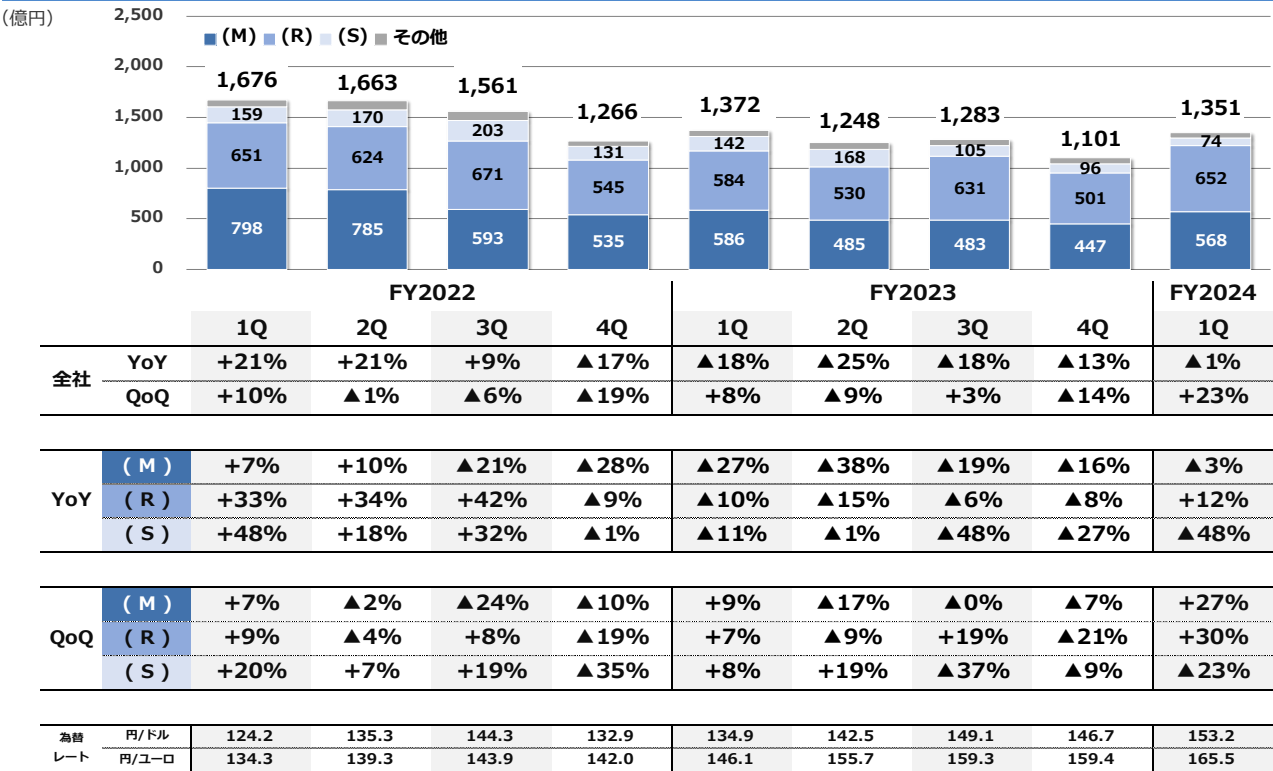
(億円)



[注] FY22のデータは、セグメント区分見直し前の数値を使用

<スキップ>

四半期受注推移（セグメント別） ※為替は期中平均レートを使用



[注. 1] 表記：(M) = モーションコントロール, (R) = ロボット, (S) = システムエンジニアリング
[注. 2] FY22のデータは、セグメント区分見直し前の数値を使用

参考情報として開示しております四半期連結受注推移について、
今年度 第1四半期のセグメントごとの地域別増減率を次の通りお伝えします。

ACサーボのYoYは全体で▲2% です。
内訳は、国内▲15%、米州+78%、欧州▲30%、中国▲35%、その他アジア+205% です。

QoQは全体で+18% です。
内訳は、国内+29%、米州+21%、欧州▲4%、中国+11%、その他アジア+28% です。

インバータのYoYは全体で▲4% です。
内訳は、国内▲25%、米州▲11%、欧州+31%、中国+18%、その他アジア+20% です。

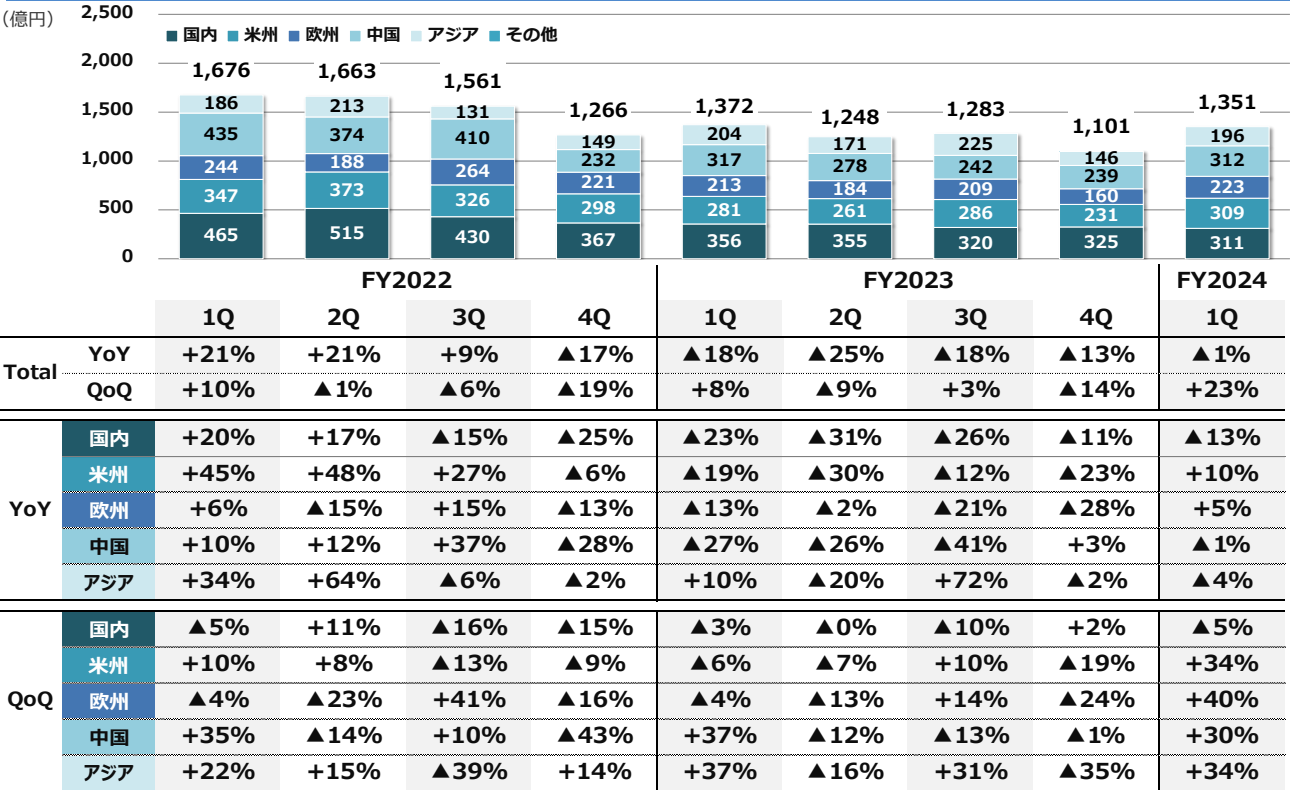
QoQは全体で+38% です。
内訳は、国内+11%、米州+52%、欧州+6%、中国+47%、その他アジア+48% です。

ロボットのYoYは全体で+12% です。
内訳は、国内+4%、米州+7%、欧州+67%、中国+23%、その他アジア▲29% です。

QoQは全体で+30% です。
内訳は、国内▲12%、米州+28%、欧州+53%、中国+42%、その他アジア+31% です。

それでは、次の24ページにお進みください。

四半期受注推移（所在地別） ※為替は期中平均レートを使用



所在地別の受注推移です。
数字はご覧の通りです。

なお、最後になりますが、配当につきましては、
期初発表時の内容から変更はありません。

中間配当は1株につき34円、期末配当についても1株につき34円と
させていただきます。

これにより、年間の配当予想は、前年度から4円増配となる68円とさせていただきます。

以上をもちまして、2024年度 第1四半期の業績概要の説明を終わります。
ご清聴いただき、ありがとうございました。

YASKAWA

© 2024 YASKAWA Electric Corporation

<スキップ>